

# 児童が運動の楽しさやできた喜びを 味わうことができる体育授業の構築

## 大分県津久見市立津久見小学校

全校児童数	205名(男子115名 女子90名)		
全クラス数	10	教職員数	23名
体育専科教員訪問学校数			3校
訪問校	堅徳小・青江小・千怒小		
体育専科教員名			川野 祐二

### Plan：取組時の課題と計画

#### 1 取組時の課題

##### ◆R5全国運動能力調査結果から

- ・男子は概ね全国・県平均を上回っているが、女子は6つの項目で全国・県平均を下回っている。
- ・男女とも「立ち幅跳び」に課題が見られる。

##### ◆生活習慣調査から

- ・平日のテレビ等の視聴時間が1時間未満の児童は男子が40.0%を上回っているのに対し、女子は5.6%にとどまっております、格差が見られる。

#### 2 取組の計画

- ① 一校一実践で授業開始直後の「5分間タイム」を実施
- ② 各種体育的行事に合わせた体力強化期間の設定
- ③ 「ふり返り」での取組の工夫や達成度合いの交流
- ④ 自身の伸びを実感できる意図的な場づくりの工夫
- ⑤ 動きを高める重要なポイントをT1T2で共有
- ⑥ 児童が自ら考え工夫する体育学習の推進

【評価】前・後期末に4校で児童・担任に授業評価を実施。

### Do：実践内容

#### 1 一校一実践「5分間タイム」

- ① 授業開始直後の5分間に短時間で楽しく取り組める運動遊び(おに遊び等)を実施する。
- ② 低・中・高学年ごとに年間計画に沿った実践の継続で体力向上を図る。年間計画は職員室に掲示。

#### 2 各種体育的行事に合わせ体力強化期間を設定

- ① 各種体育的行事に向け強化期間を設定することで、様々な運動経験を積み重ねることを重視し、十分な運動量を確保する。
- ② 各取り組みごとにカードを作成し、意欲化を図る。

#### 3 児童間の交流を図る「ふり返り」

- ① めあてに対し「わかったこと」「できたこと」を確認する「ふり返り」の場を位置づけ、各自が工夫した取り組みや達成度合いなどを互いに交流させる。

#### 4 自身の伸びを実感できる場づくりの工夫

- ① 個の力に応じて選択でき、自身の伸びを実感できるよう、可能な限りスモールステップを意識した場づくりを意図的に行う。
- ② 「前よりも上手になった」「できなかったことができるようになった」実感こそが「運動好きな子の育成」につながることを大切にする。

#### 5 重要なポイントをT1T2で共有

- ① 各授業の中で、児童の動きを高める重要なポイントとなる点やその際の言葉かけをT1T2で押さえ

ながら共有し、指導方法の工夫改善を推進する。

#### 6 自ら考え工夫する体育学習の推進

- ① 相互に動きを見合ったり、教え合ったり、称え合ったりする場を積極的に設定し、意欲の向上を図りながら自ら考え工夫する体育学習を推進する。

#### ●工夫したこと(&苦労したこと)

- ① 小学校で最低でも25mは泳げる力をつけて中学校へ送り出してきたが、2・3年生と2年間の水泳指導未実施のブランクから、その泳力をつけてあげることができなかった児童が多数いた。
- ② 体育専科教員として学級担任とTT指導は行ってきたが、「人材育成の観点から主にT2で指導する」という活用方法はほとんど実現できなかった。

#### Check：取組の成果

- ① 運動の楽しさやできた喜びを味わうことができる体育学習を目指し、児童349名にアンケートを実施。「体育の学習が楽しい」と肯定的な回答の割合が、前期末は99.2%であった。
- ② 「体力が向上してきた」と肯定的な回答の割合が、前期末は95.1%であった。
- ③ ティーボールでは地域の方を講師として招聘し、本務校と訪問校の4校すべての3・4年生で2時間ずつGTとして入っていただいた。今年度で4年目。

#### Action：今後の課題

- ① 市内の全学年が2年間水泳指導未実施だったブランクから3年目の指導であったが、依然これまでと比較すると泳力の低下が見られる学年があり、これからも一年ごとの指導を地道に積み重ねながら、泳力の回復を図っていかねばならない。
- ② 各校の一校一実践が日常的に実践され、「体力の向上」「運動好きな子の育成」に繋がっているのか、検証と改善を働きかけていく。
- ③ 学級担任の人材育成を推進する体育専科教員の活用方法とその意図を各校の管理職及び各学級担任の先生方に認識していただき、その上で担任がT1・体育専科がT2として指導にあたる授業を、どの時期にどの単元で実施するか、年間計画を作成する。

#### ◎体力向上の取組がもたらす波及効果

##### 【児童】

- ・様々な運動にチャレンジしようとする意欲の高揚
- ・「他を思いやるやさしさ」「仲間と協力する心」の涵養

##### 【教職員】

- ・動きを高める有効な指導方法の獲得と指導力の向上

## ◇児童がチームで協力しながら、だれもが楽しく取り組む『ベースボール型ゲーム』

### 1. キックベースボール編

#### ルール

- ・1チームは、4～7人くらいが適。
- ・一塁線側、三塁線側に整列し、挨拶後にジャンケンで先攻後攻を決める。

#### 【攻撃】

- ・ホームベース上にサッカーボールを置き、後ろから助走をつけ思いっきりキック。
- ・キックしたら一塁方向へ走り、アウトになるまでに赤コーンにタッチしたら1点、青コーンにタッチしたら2点、それからホームに戻ってきたら3点。
- ・チームの全員が1回ずつキックしたら、攻守を交代。
- ・攻撃チームは、キックする人以外は三塁線側のベンチの中で攻撃順に並んで待機。
- ・1試合は、2回ずつの攻守で終了。

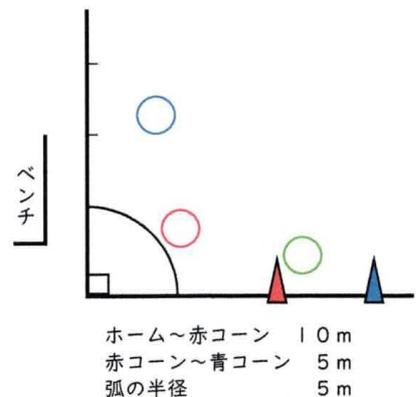
#### 【守備】

- ・ボールをキャッチしたら、3つのフラフープ（3色）の内の一番近いフラフープの中にボールを置き、チームの全員がそろって座ったら「アウト」をコールする。 → \*守備チームはどの色のフラフープでアウトにするか、素早く声をかけ合う。
- ・「アウト」のコールを受けるまでに、どこまで進塁できたかで得点が決定。
- ・ホームに戻ってくるときは、攻撃チームの全員で「せ～の～、ホーム」をコール。

#### 応用編

- ・3色のフラフープの位置は攻撃者に合わせ、守備チームが自由に位置を変えてもよい。

コート図



### 2. ティーボール編

#### ルール

- ・1チームは、5～10人くらいが適。
- ・一塁線側、三塁線側に整列し、挨拶後にジャンケンで先攻後攻を決める。

#### 【攻撃】

- ・ホームベース上にティーを置き、ティーに乗せたボールを思いっきり打つ。
- ・打ったらアウトのコールを受けるまで、一塁、二塁、三塁、ホームへと走る。  
→ \*オーバーランで走る
- ・一塁まで進塁したら1点、二塁で2点、三塁で3点、ホームに戻ってきたら4点。
- ・打者はボールを打った後、バット入れ（コーン）の中にバットを入れる。バットが入っていない場合は0点。
- ・攻撃チームは、打者と次の打者以外は三塁線側のベンチの中に打順で並んで待機。
- ・次の打者は「バット、バット」とバットの収納を指示し、その後にバットを引き抜く。
- ・チームの全員が1回ずつ打ったら、攻守を交代し、1試合は2回ずつの攻守で終了。

#### 【守備】

- ・ボールをキャッチしたら、4つのフラフープの内の一番近いフラフープを踏むか、フラフープの中にいる人にボールを投げ、その人がボールをキャッチしたら、チームの全員で「アウト」をコールする。
- ・「アウト」のコールを受けるまでに、どこまで進塁できたかで得点が決定。
- ・ホームに戻ってくるときは、攻撃チームの全員で「せ～の～、ホーム」をコール。

#### 応用編

- 例1. 【バックホームゲーム】 フラフープはホームベースの前に1つだけ置き、すべての打球はそのフラフープでアウトにする。  
例2. バットが入っていない場合の得点は0点にはせず、バットを入れたら「走塁得点 + バット点1点」とする。

コート図

